プレゼンテーション(1)

第6回

一般的な発表時間

- 学会等のオーラル講演
  - 発表：15分 ～ 20分程度
  - 質疑応答：5分 ～ 10分程度

- 情報工学科／情報科学専攻
  - 中間発表：2分／質疑応答なし
  - 卒論発表：10～11分程度／質疑応答：2～3分（人数によって毎年若干異なる）
  - 修論発表：20分／質疑応答：10分

一般的な発表の形態

- オーラル（口頭発表）
  - 発表者による話が主体
  - 発表が終わってから、まとめて質疑応答
  - 補助的にプロジェクタなどを利用
    - もはやPC画面のプロジェクタ投影が一般的
    - OHP (Over-Head Projector)
    - フィルム・スライド
- ポスター（ポスターと質疑応答）
  - 聴講者との会話が主体
  - 随時、個別の質疑応答

発表の基本

- メインは話であり、スライド画面は補助的役割であることを認識する
- スライドを作ること＝発表の準備の全てではない
- 発表内容の吟味に時間をかけるべき
- 補助的役割のスライド画面に望まれること
  - 発表の効果的な手助けになること
    - 口頭だけでは分かりづらいことを数式、図、グラフ、写真、ムービーなどで説明
  - 発表の妨げにならないこと
    - 聴講者がスライドを読むことに忙しくなると、話を聞かなくなる

何ページのスライドを用意？

- 2分の中間発表：30秒／1ページ（4ページ）
- 10分から20分くらいまでの発表であれば、1分／1ページ程度が目安（それ以下だと速すぎてついていけない）
- 時間が長い講演なら、もっとゆっくり
- 私の目安（技術に関する話に限る）
  - 90分の講義（素人相手）： 4.5〜6.0分／ページ（15〜20ページ、20ページだとちょっと多め）
  - 3時間の講演（専門家以下）： 2.6〜3.6分／ページ（50〜70ページ）
  - 6時間の講演（専門家以下）： 3〜4分／ページ（90〜120ページ）

1分／1ページ

- 1ページは説明付きで1分程度で理解できるような構成が望ましい
- メインは話であり、スライドは補助的役割であることを忘れてはいけない
  - スライドの中身＝話す文章　→　そんなページは不要
    - 読めば済むなら発表する意味がない
    - 画面の文を読むだけの発表は、発表者の準備不足／自信のなさから
    - 文字だけだと聴講者は読むことに集中してしまい、話を聞かない

発表原稿？

- メインは話なのだから、原稿を読んでいたら説得力がない（スライドを読むのも同じ）
- ただし、分野によっては発表原稿を読むのが当たり前のところもあるらしい...
  - 医学の分野
    - 病名や薬の名前など、似たようなものが多くかつ、複雑なものが多いため、間違えては困るから？（本当のところは知らない）
  - 政府の発表や国会の答弁
    - 小泉元首相が斬新だった（評価された？）のは原稿を読まなかったから？

本日の実習

Steve Jobs

- 米Apple社の元CEO (Chief Executive Officer: 最高業務執行者)であり、カリスマ扱いされていた (2011年没)
- Steve Jobs のスピーチのすごいところ
  - 話が上手（早口でも英語は聞きやすい）
  - 2時間近い講演で膨大な量のスライドなのに（技術講演でないので、文字が一言だけというページも多いため量が多い）その全ての順番と切り替えタイミングを完璧に把握している
  - スライドの画面を全く（と言っていい程）見ない
  - 細かな数字や言葉まで全て覚えている
  - デモが用意周到に準備されおり、その全てを把握している（CEOが自社の製品をきちんと扱える）

ただし...

- いわゆる研究等の技術プレゼンテーションでは、同じことはできない（それでも学ぶべきことは多い）
  - Jobsのスライドはキーワードのみ
  - 論文では、システム図を説明したり、数式やグラフを説明しないといけない（1分／1ページ）
- 今後の発表に活かしてくれることを期待してます